

2011 年 1 月 29 日

太秦・嵯峨野地域の遺跡 —古墳出現前夜—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 辻 裕司

1 太秦・嵯峨野地域

- ・太秦・嵯峨野地域は、現在の行政区名では京都市右京区の南西部に属する。おもに、東部の太秦地域は、太秦・常盤・山越・鳴滝および宇多野など周辺地区、西部の嵯峨野地域は、嵯峨野・嵯峨・北嵯峨および周辺地区が含まれる地域である。地理的には、おもに、北・西は丹波帯の山地、南は桂川および有栖川、東は御室川によって画された地域で、概して、有栖川・御室川などの河川によって形成された扇状地形の平野部と、北部山麓地域に相当する。遺跡は、平野部と、北部山麓地域に分布する。

2 太秦・嵯峨野地域の遺跡

- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現前夜まで遺跡には、先土器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代前・中期の遺跡がある。
- ・先土器時代
菖蒲谷池遺跡では、ナイフ形石器やチャート製の尖頭器などの旧石器が採集されている。菖蒲谷池遺跡の石器は、おもにチャートを石材に利用する。広沢池遺跡や沢ノ池遺跡では、サヌカイト製のナイフ形石器が採集されている。
- ・縄文時代
前掲の菖蒲谷池や広沢池では、縄文時代の石器が採集されている。蜂ヶ岡中学校(上ノ段町遺跡)では、縄文時代早期・前期の遺物が出土。嵯峨院跡下層では、縄文時代中期の土坑を検出。天龍寺隣接地では、晩期の土器が出土。天龍寺境内下層では、縄文時代中期の土器が出土。村ノ内遺跡では、縄文時代中期の土坑を検出。

・弥生時代

- 梅ヶ畑遺跡では、弥生時代中期の銅鐸が工事中に偶然発見された。
- 天龍寺境内下層では、弥生時代の土器が出土。
- 村ノ内遺跡では、弥生時代中期の遺物が出土。
- 西野町遺跡では、弥生時代と考えられる竪穴住居を検出。
- 和泉式部町遺跡では、弥生時代中期の竪穴住居を検出。

・古墳時代(古墳出現期まで)

- 村ノ内遺跡では、古墳時代前期の遺物が出土。
- 西野町遺跡では、古墳時代前期の竪穴住居を検出。
- 和泉式部町遺跡では、古墳時代前・中期の竪穴住居を検出。中期の竪穴住居には鉤形に折れ曲がる竈を付設したものがあ。韓式系土器や初期須恵器出土。

3 まとめ

- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現期までの遺跡分布
- ・和泉式部町遺跡における弥生時代中期、古墳時代前・中期の竪穴住居
- ・太秦・嵯峨野地域における古墳出現期

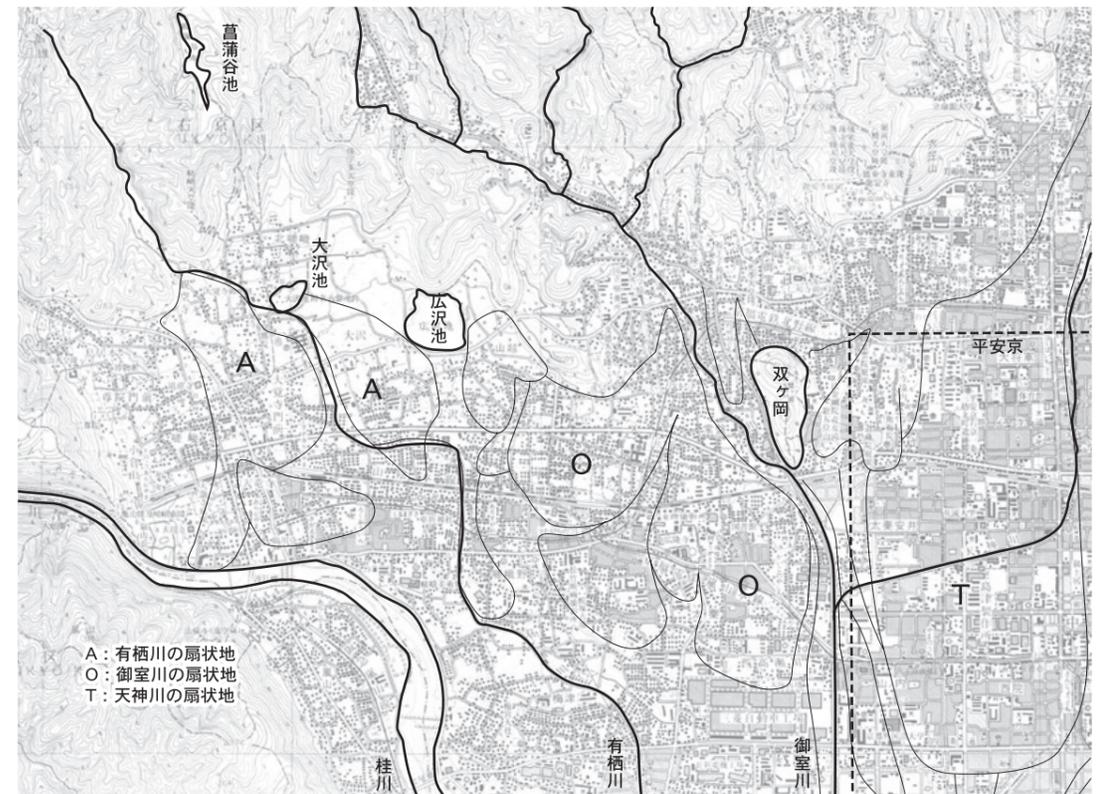


図 1 太秦・嵯峨の地域の地形



図2 先土器時代の遺跡

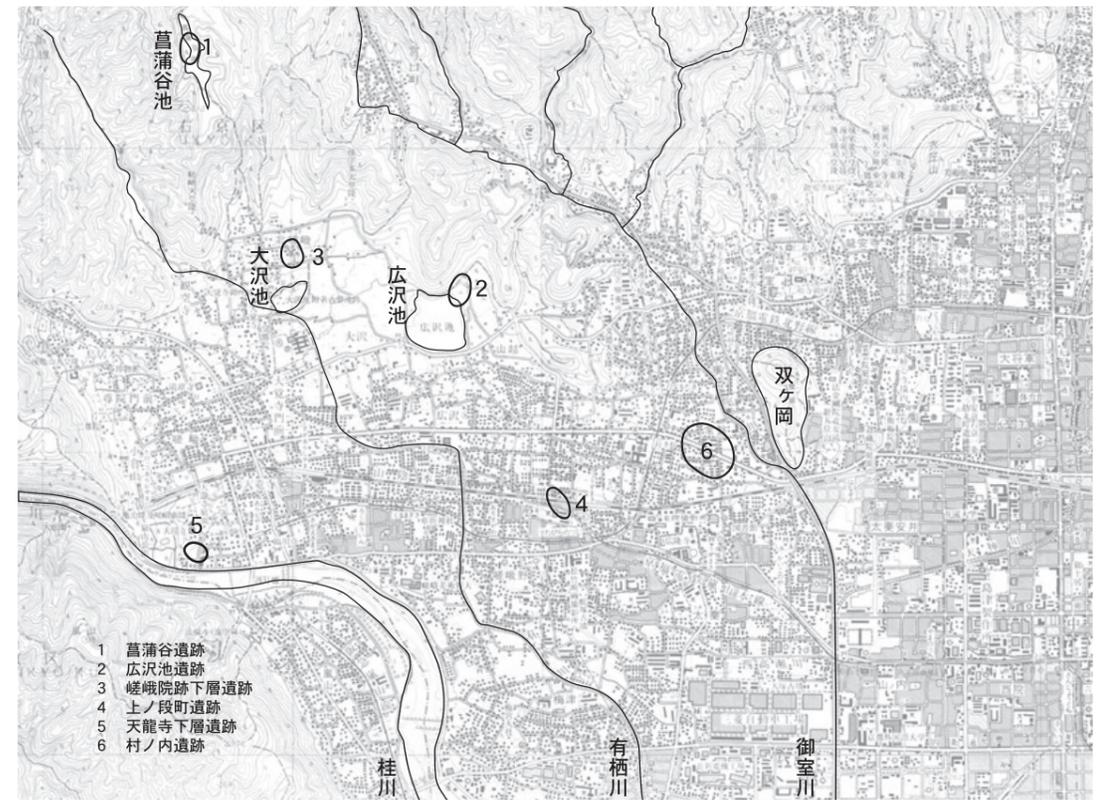


図5 縄文時代の遺跡

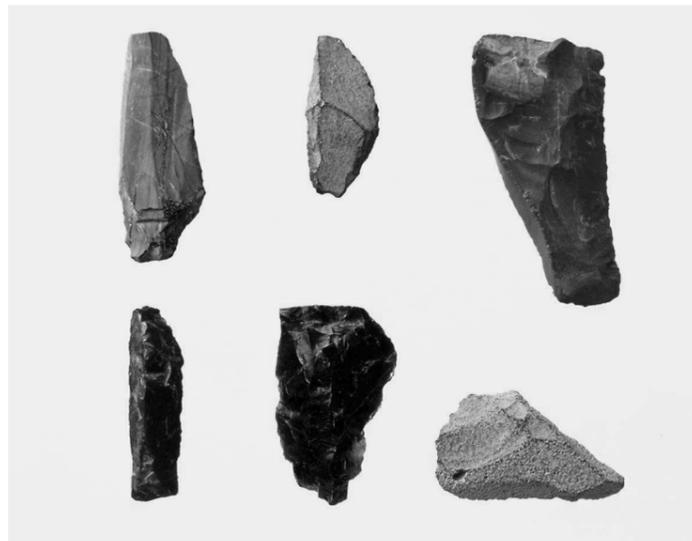


図3 菖蒲谷池遺跡出土石器

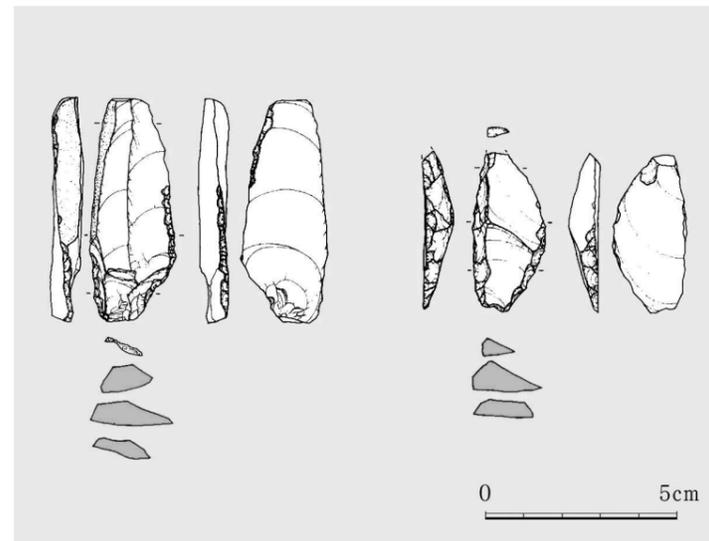


図4 菖蒲谷池遺跡出土石器

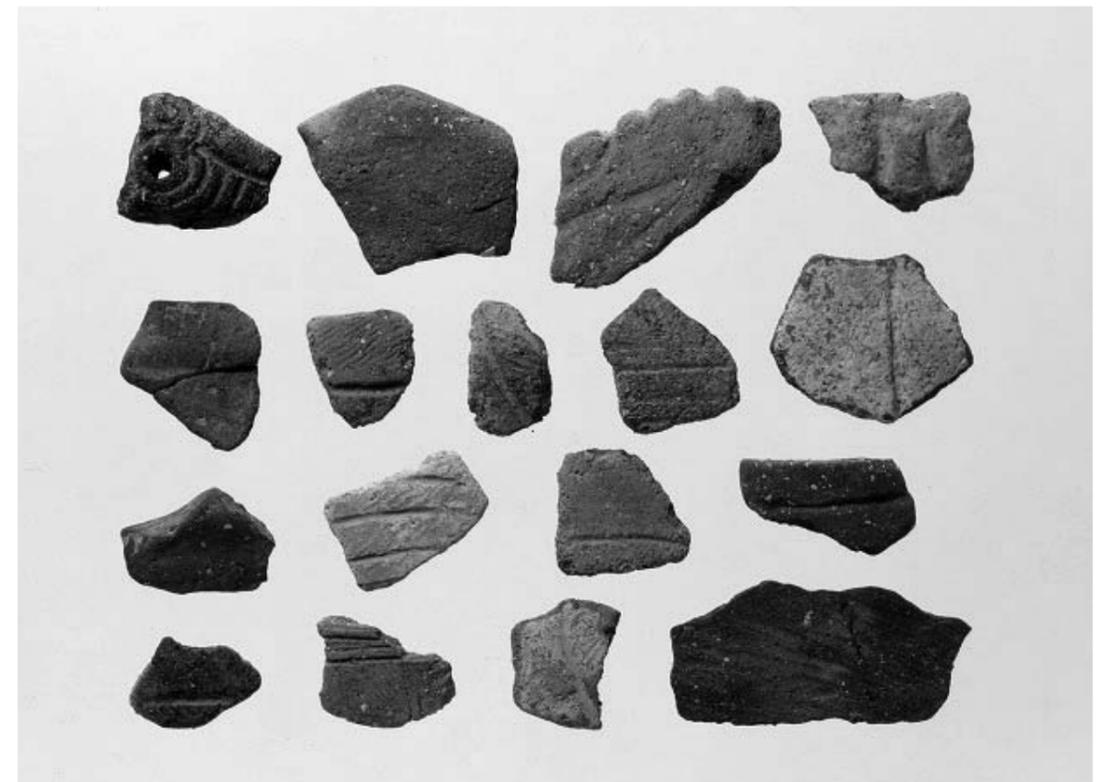


図6 縄文土器

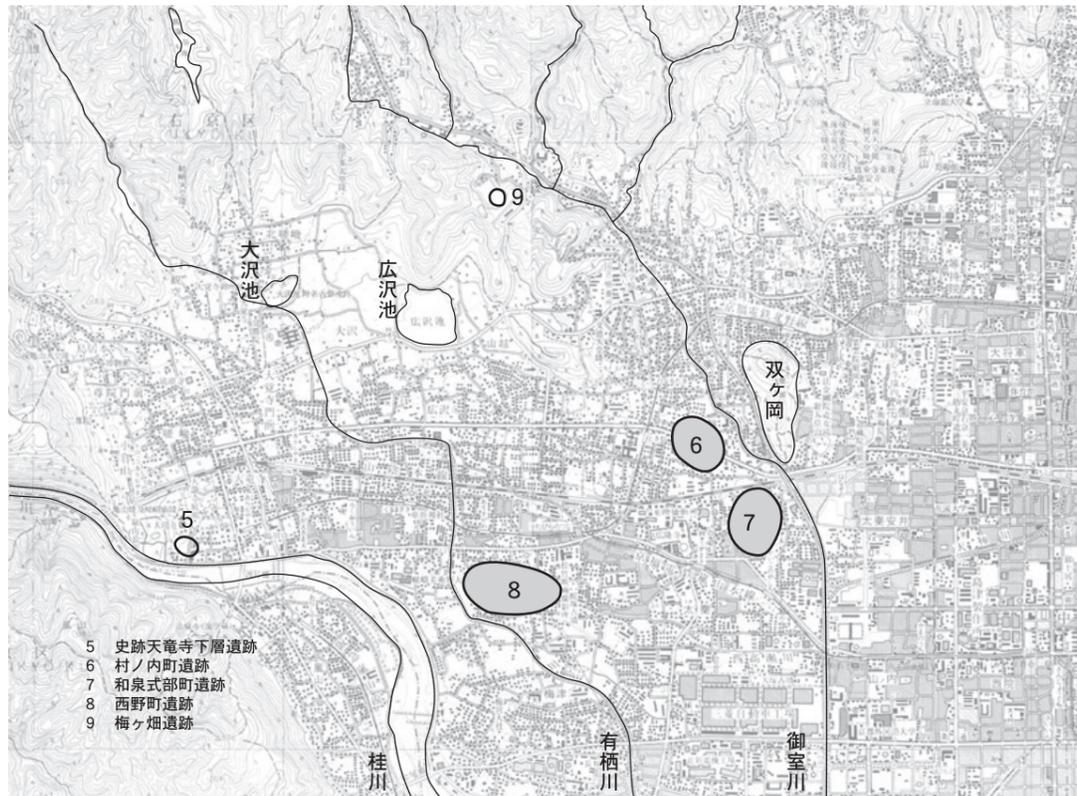


図7 弥生時代・古墳時代中期までの遺跡



図9 和泉式部町遺跡
弥生時代から古墳時代中期の竪穴住居跡



図10 和泉式部町遺跡
弥生時代の竪穴住居



図8 梅ヶ畑遺跡 出土銅鐸



図11 和泉式部町遺跡
古墳時代前期の竪穴住居(住居の拡張)



図12 和泉式部町遺跡
古墳時代中期の竪穴住居

